

2025年度（令和7年度）
大学院薬食生命科学総合学府
学生募集要項

秋季（2025年10月）入学

薬学専攻 博士課程
薬科学専攻 博士後期課程
薬食生命科学専攻 博士後期課程



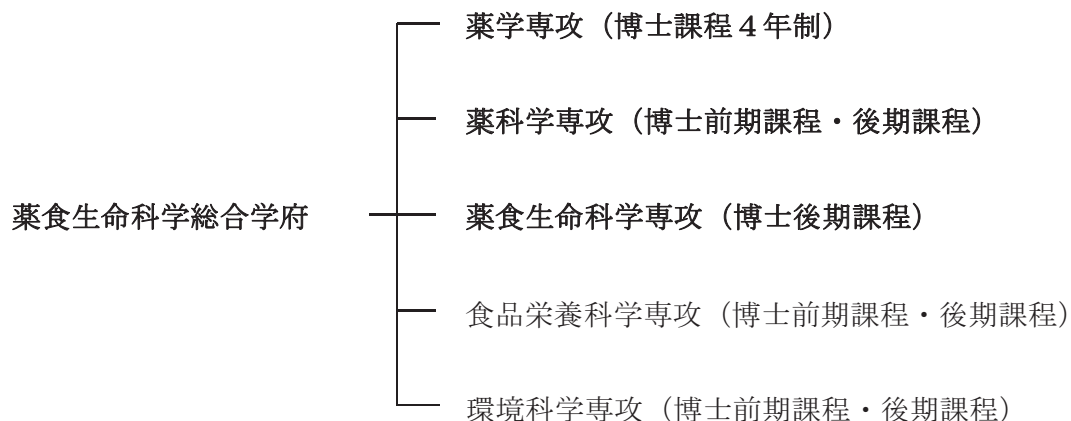
<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

目 次

	ページ
目次	1
専攻概要	2
ポリシー	3
1 募集人員及び修業年限	6
2 入学者選抜日程等の概要	6
3 出願資格および選抜区分	7
4 出願資格審査	9
5 出願	1 0
6 選抜方法	1 1
7 試験日程及び会場	1 1
8 合格発表	1 1
9 出願書類の請求及び留意事項	1 1
1 0 その他	1 2
講座一覧	1 3
試験会場	1 5

【薬食生命科学総合学府】

本学府は、薬学部および、食品栄養科学部（平成26年度より環境科学研究所教員を併合）の大学院教育組織として、平成24年度に統合・開設されました。薬と食を基盤とした最先端生命科学を究め、健康寿命の延伸と安全・安心な環境の創出に貢献できる研究者や高度専門技術者を育成することを目的とします。



【学府の理念、目標】

健康増進や病気の予防・治療による健康長寿の実現には、適切な医薬品や食品の開発・選択と、医薬品の適正使用が欠かせません。薬食生命科学総合学府では、健康維持の要因あるいは疾病の発症・進展のメカニズムを生命科学や物質科学の観点から解明し、健康長寿社会の構築に貢献する意欲があり、そのための努力を惜しまない学生を求めています。薬学、食品栄養科学、環境科学等の最先端科学を通して国際的に貢献できる人材を養成します。

【求める学生像】

薬、食品、栄養あるいは環境に関する科学に貢献する意欲のある学生を幅広く求めます。そのためには、

- 1) 薬、食品、栄養あるいは環境に関する科学の習得と研究に必要な基礎学力
- 2) 国際的な科学コミュニティへの参加に必要な英語能力

が必要です。

医療薬学・臨床薬学関連分野の第一線で活躍できる高い専門性を有する人材の育成を目指します。具体的には、医療薬学や臨床薬学領域における研究者・教育者、指導的立場に立つ薬剤師、治験・臨床開発従事者を養成し、がん・感染症等の専門薬剤師や治験コーディネーターの資格取得などを支援します。

【学位授与の方針（ディプロマポリシー）】

薬学専攻では、医療薬学・臨床薬学関連分野の第一線で活躍できる高い専門性を有する薬剤師や医療薬学研究者の養成を教育目標として掲げており、以下に掲げる資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対し、博士（薬学）の学位を授与します。

1. 高い国際対話能力
 - ・グローバルに活躍できる情報収集能力を有し、それに必要なコミュニケーション能力及び国際感覚を身につけている。
2. 倫理観
 - ・生命倫理及び患者の人権を最優先するという強い倫理観を身につけている。
 - ・研究活動の責任・使命を理解し、健全な科学倫理観を身につけている。
3. 高度な知識と技能
 - ・最先端の医療ならびに基礎及び臨床研究を実施できる知識と技能を有している。
 - ・臨床及び研究活動における課題解決に必要な知識と技能を有している。
 - ・医療現場や研究活動において指導的立場として活躍できる知識と技能、ならびにコミュニケーション能力を有している。
4. 高い臨床能力
 - ・医療現場で遭遇する様々な問題を率先的に発見・解決できる臨床的な能力を身につけている。
 - ・薬物療法を提案・遂行する能力を身につけ、チーム医療に指導的立場で貢献できる。
5. 自己研鑽
 - ・医療人として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲と能力を身につけている。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）】

医療人としての倫理観を持ち、世界に通用する語学力及びコミュニケーション能力を養うとともに、臨床薬学及び薬学研究の基盤となる知識と技能を醸成し、医療の担い手として貢献する指導的立場の薬剤師や医療薬学領域の研究者を養成するために、以下のようなカリキュラムを編成しています。

1. 薬学関連領域の講義科目の履修により、倫理観を養い、薬学に関する高度な知識の習得をはかる。
2. 薬学の演習科目、実験科目の履修により、優れた臨床及び基礎研究能力ならびに問題解決能力を養う。
3. 国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力を養うための語学教育やスモールグループディスカッションを行う。

【入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）】

医療人としての倫理観を持ち、世界に通用する語学力及びコミュニケーション能力を養うとともに、臨床薬学及び薬学研究の基盤となる知識と技能を醸成し、医療の担い手として貢献する指導的立場の薬剤師や医療薬学領域の研究者を目指す次のような人を求めています。

1. 健全な倫理観を備え、指導的立場の薬学人として社会に貢献したいという強い信念と情熱を持つ人
2. 大学で習得した薬学の基礎知識や技能を基盤として、それらをさらに発展させたいという学習意欲と科学的探求心を有している人
3. 社会のニーズに柔軟に対応できる創造力と論理的思考力を有し、医療や薬物治療に対する問題意識を常に持ち、他者と意見交換しながら論理的に問題解決へ向けて取り組む人

薬学の全ての分野において高水準の教育・研究活動を行い、物質科学および生命科学の横断的・総合的研究能力を有する先端的科学研究的担い手となる科学者・技術者および高い専門性を活かした行政従事者、薬学関係の教育・研究に携わる教員等を輩出します。

【学位授与の方針（ディプロマポリシー）】

薬科学専攻では、創薬科学及び生命薬学の研究領域でグローバルに貢献でき指導的役割を担える人材の育成を教育目標として掲げており、以下に掲げる資質を身につけ所定の単位を修得した学生に修了を認定し、博士（薬科学）の学位を授与します。

1. 高い国際対話能力
 - ・グローバルに活躍できる情報収集能力とそれに必要なコミュニケーション能力及び国際感覚を有し、研究成果を世界に発信する能力を身につけている。
2. 倫理観
 - ・生命の尊厳を守るための強い倫理観を身につけている。
 - ・研究活動の責任・使命を理解し、健全な科学倫理観を身につけている。
3. 高度な知識と技能
 - ・創薬・生命薬学研究に必要な複数の薬学専門領域に関する知識・技能を身につけている。
 - ・薬学的基礎知識・技能を基盤とし、創薬・生命薬学研究の分野を切り拓く能力を身につけている。
4. 独創性と問題解決能力
 - ・創薬・生命薬学研究者に求められる独創性や問題解決能力を身につけている。
 - ・創薬・生命薬学研究を自ら計画・遂行し、さらに指導的立場で活躍できる知識及び技能を身につけている。
5. 自己研鑽
 - ・創薬・生命科学に関わる研究者として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲と能力を身につけている。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）】

大学人としての倫理観を持ち、世界に通用する語学力及びコミュニケーション能力を養うとともに、創薬、生命薬学研究の基盤となる知識と技能を醸成し、創薬・生命薬学研究を担う創造力豊かな指導的研究者や高度専門職業人を養成するために、以下のようなカリキュラムを編成しています。

1. 創薬及び生命薬学関連領域の講義科目の履修により、倫理観を養い、創薬及び生命薬学に関する高度な知識の習得をはかる。
2. 演習及び実験・研究プログラムを通じて、創薬・生命薬学研究の分野を切り拓く能力を養う。
3. グローバルリーダーとして活躍できる語学力とコミュニケーション能力を涵養し、グローバル・リテラシーを培う。

【入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）】

大学人としての倫理観を持ち、世界に通用する語学力及びコミュニケーション能力を養うとともに、創薬、生命薬学研究の基盤となる知識と技能を醸成し、創薬・生命薬学研究を担う創造力豊かな指導的研究者や高度専門職業人を目指す次のような人を求めています。

1. 健全な倫理観を備え、指導的立場の薬学人として社会に貢献したいという強い信念と情熱を持つ人
2. 薬科学の専門的知識や技能を基盤として、それらをさらに発展させたいという学習意欲と科学的探求心を有している人
3. 社会のニーズに柔軟に対応できる創造力と論理的思考力を有し、基礎薬学に軸足を置き、創薬研究や生命薬学研究に高い集中力で忍耐強く取り組む人

薬学、栄養学、食品科学の知識を統合し、物質科学的及び生命科学的観点から薬食境界領域の先端的科学研究の担い手となる科学者・技術者を養成します。本専攻は、医薬の創製、疾病の成因の解明および薬物治療の適正化を目指す薬科学と食品の高次機能と食品成分の体内動態の解明により疾病予防および物質の安全性評価を目指す食品栄養科学を融合し、世界最高水準の「薬食生命科学」の創成を図るものです。

【学位授与の方針（ディプロマポリシー）】

薬食生命科学専攻では、薬食生命科学や健康長寿科学の研究領域でグローバルに貢献でき指導的役割を担える人材の育成を教育目標として掲げており、以下に掲げる資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対し博士（薬食生命科学）あるいは博士（生命薬科学）の学位を授与します。

1. 高い国際対話能力
 - ・薬食生命科学や健康長寿科学の研究領域においてグローバルに活躍できる情報収集能力とコミュニケーション能力を身につけている。
2. 倫理観
 - ・正しい倫理観と研究の課題解決能力を習得している。
3. 高度な知識と技能
 - ・薬学と食品栄養科学を基盤とした幅広い知識を理解し、論理的に思考できる。
4. 独創性と問題解決能力
 - ・専門領域における独創的な研究・開発を牽引するために必要な研究能力と意欲を持っている。
 - ・修得した知識と研究能力を基に、国際社会から地域社会までのグローバルな視点で社会に貢献できる能力と姿勢を持っている。
5. 自己研鑽
 - ・薬食生命科学という学際融合領域に関わる研究者として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲と能力を身につけている。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）】

薬食生命科学という学際融合領域の学問を習得するため、薬学、栄養学、食品科学を統合的に捉え、薬食生命科学領域の研究を通して、健康長寿科学を遂行するチャレンジ精神と優れた俯瞰力を有し、独創的な研究・開発を牽引するリーダーとして、グローバルに活躍できる知識、研究力、正しい倫理観をもつ研究者や高度専門職業人を養成するために、以下のようなカリキュラムを編成しています。

1. 倫理観を養い、薬食生命科学領域における高度な知識を習得した人材を育成する。
2. 薬食生命科学の演習科目、実験科目の履修により、優れた研究能力を養う。
3. 国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力を培い、国際対話能力の育成をはかる。

【入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）】

「薬食融合」という共通認識を基に、薬学、栄養学、食品科学の知識を統合し、物質科学的及び生命科学的観点から薬食境界領域の薬食生命科学における先端的科学研究を通して、健康長寿社会への貢献を目指す次のような人を求めています。

1. 「健康寿命」を延ばすための「薬食生命科学」の学問領域に関心が高く、修得した教育研究の成果を、社会に還元することに意欲がある人
2. 「薬食生命科学」の専門分野の修得に必要な薬学、栄養学、食品科学、あるいは生命科学などの学問領域の基礎学力・研究の能力を備えている人
3. 国際社会から地域社会までの社会貢献を視野に入れたグローバルな思考ができる人

1 募集人員及び修業年限

専攻	課程	募集人員	標準修業年限
薬学専攻	博士	若干名	4年
薬科学専攻	博士後期	若干名	3年
薬食生命科学専攻	博士後期	若干名	3年

※ 募集人員は、社会人特別選抜（若干名）及び外国人特別選抜（若干名）を含みます。

※ 講座の「主な研究分野と研究題目」については13・14ページを参照してください。

詳細については、薬学研究院ホームページを参照してください。

URL : <https://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

2 入学者選抜日程等の概要

事項	日程・試験会場等
障がい等のある入学者志願者の事前相談	2025年6月13日（金）
出願資格審査書類の申請受付期間	2025年6月9日（月）～6月13日（金）16:00必着 受付時間：平日9:00～12:00、13:00～16:00
出願期間	2025年7月11日（金）～7月18日（金）15:00必着 受付時間：平日9:00～12:00、13:00～16:00 （最終日のみ受付終了時刻が異なります。ご注意ください。）
試験日/会場	2025年8月20日（水） 草薙キャンパス
合格発表	2025年9月2日（火）10時 ※合格者の受験番号は本学ホームページにて掲載します。 ただし、合格通知書の送付をもって正式通知とします。
入学手続	2025年9月12日（金） ※郵送による受付日は入学手続要項送付時にお知らせします。

3 出願資格および選抜区分

薬学専攻 博士課程

2025年9月末日をもって、下記(1)～(8)のいずれかに該当、あるいは該当する見込みの者。

- (1) 大学の薬学（修業年限が6年であるものに限る。）、医学、歯学又は獣医学を履修する過程を卒業した者（法第83条） ※「大学」とは日本国内の大学を指します。
- (2) 修士の学位や専門職学位を有する者（法第102条第1項）
- (3) 外国において修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者（施行規則第156条第1号）
- (4) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者（施行規則第156条第2号）
- (5) 我が国において、外国の大学院相当として指定した外国の学校の課程（文部科学大臣指定外国大学（大学院相当）日本校）を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者（施行規則第156条第3号）
- (6) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者（施行規則第156条第4号）
- (7) 大学等を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本学学長が修士の学位を有する者と同等の学力があると認めた者（平成元年文部省告示第118号）
- (8) 本学学長が、大学院の個別入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、2025年9月30日までに24歳に達する者

（法：学校教育法、施行規則：学校教育法施行規則）

《一般選抜》

出願資格(1)～(8)のいずれかに該当する者

《社会人特別選抜》

出願資格(1)～(8)のいずれかに該当し、かつ、次の各号のいずれかに該当する者で、社会人特別選抜の出願資格審査を通過した者は、社会人特別選抜として出願できます。ただし、勤務先で、休職等により本務を離れて本学で勉学することを許可された者は、一般選抜に出願してください。

- ① 社会人として実務経験を3年以上有する者
- ② ①のほか、企業、研究機関等に勤務する者で、当該勤務先の承認を得ている者
- ③ その他学長が特に認める者

※入学後も企業、研究機関等で勤務を継続する者は、当該勤務先との間で問題が生じないように留意してください。

《外国人特別選抜》

出願資格(3)～(8)のいずれかに該当し、かつ、日本国籍を有しない者（日本国永住許可を得ている者を除く）で、教育を受ける目的をもって入国した者または入国する者は、外国人特別選抜として出願できます。

出願資格(3)～(8)のいずれかに該当する者、または社会人特別選抜、外国人特別選抜での出願を希望する者は、事前の審査が必要です。9ページの「4 出願資格審査」を必ずご確認ください

薬科学専攻/薬食生命科学専攻 博士後期課程

2026年3月末日をもって、下記(1)～(7)のいずれかに該当、あるいは該当する見込みの者。

- (1) 修士の学位や専門職学位を有する者（法第102条第1項）
- (2) 外国において修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者（施行規則第156条第1号）
- (3) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者（施行規則第156条第2号）
- (4) 我が国において、外国の大学院相当として指定した外国の学校の課程（文部科学大臣指定外国大学（大学院相当）日本校）を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者（施行規則第156条第3号）
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者（施行規則第156条第4号）
- (6) 大学等を卒業し、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本学学長が修士の学位を有する者と同等の学力があると認めた者（平成元年文部省告示第118号）
- (7) 本学学長が、大学院の個別入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、2026年3月31日までに24歳に達する者

（法：学校教育法、施行規則：学校教育法施行規則）

《一般選抜》

出願資格(1)～(7)のいずれかに該当する者

《社会人特別選抜》

出願資格(1)～(7)のいずれかに該当し、かつ、次の各号のいずれかに該当する者で、社会人特別選抜の出願資格審査を通過した者は、社会人特別選抜として出願できます。ただし、勤務先で、休職等により本務を離れて本学で勉学することを許可された者は、一般選抜に出願してください。

- ① 社会人として実務経験を3年以上有する者
- ② ①のほか、企業、研究機関等に勤務する者で、当該勤務先の承認を得ている者
- ③ その他学長が特に認める者

※入学後も企業、研究機関等で勤務を継続する者は、当該勤務先との間で問題が生じないように留意してください。

《外国人特別選抜》

出願資格(2)～(7)のいずれかに該当し、かつ、日本国籍を有しない者（日本国永住許可を得ている者を除く）で、教育を受ける目的をもって入国した者または入国する者は、外国人特別選抜として出願できます。

出願資格(2)～(7)のいずれかに該当する者、または社会人特別選抜、外国人特別選抜での出願を希望する者は、事前の審査が必要です。9ページの「4 出願資格審査」を必ずご確認ください

4 出願資格審査

下記のいずれかに該当する者は、事前に出願資格審査を行います。

- ・(薬学専攻)出願資格(3)～(8)のいずれかに該当する者
- ・(薬科学専攻/薬食生命科学専攻)出願資格(2)～(7)のいずれかに該当する者
- ・社会人特別選抜での出願を希望する者
- ・外国人特別選抜での出願を希望する者

当該年度よりも前に出願資格審査で出願を認められた者も、改めて出願資格審査を受ける必要があります。期日までに提出がない場合には、**いかなる理由があっても出願できません**のでご注意ください。

(1) 出願資格審査申請期間

2025年6月9日(月)～6月13日(金)

窓口受付時間：平日9:00～12:00、13:00～16:00

(郵送の場合も、最終日16:00必着)

(2) 出願資格審査書類

角形2号の封筒(縦332mm×横240mm)に該当する書類を入れ、学生部入試室宛に提出してください。
(封筒の表書きには「**大学院薬食生命科学総合学府 秋季入学 出願資格審査書類在中**」と朱書すること)
郵送の場合は、**簡易書留郵便**または**簡易書留速達郵便**により提出してください(期限厳守)。

提出先：〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学 学生部入試室

提出書類	説明 (所定の様式は本学ホームページからダウンロードすること)
a 出願資格審査申請書	所定の様式 ◎申請に先立って、必ず志望講座・研究室主任教員に連絡をとること
b 住民票 ※外国人留学生のみ	日本に在住している外国人は住民票(在留資格、在留期間が明示されているもの)を提出すること。※在留カードのコピーは不可 日本に在住していない外国人は、国籍を証明する書類(旅券の写しなど)を提出すること。
c 卒業・修士課程修了(見込)証明書【原本】 *1	出身大学(院)において作成、 厳封したもの を提出すること。 ※修士課程を修了している者・修士課程を修了見込みの者については、学士の卒業証明書は不要
d 成績証明書【原本】 *1	学部と修士課程 について、出身大学(院)においてそれぞれ作成、 厳封したもの を提出すること。 ※大学等に編入した者は、編入前の学校の成績証明書も提出
e 研究歴・研究内容の要旨 *1	A4判縦、様式任意(日本語または英語)
f 研究論文目録 *1	A4判縦、様式任意(日本語または英語)
g 研究論文 *1	「最終学歴の学位論文」の写しとその要旨(2000字程度、A4判縦：横書、パソコン等での作成可)。学位論文がない者は、その他の研究論文。
h 受験許可書 *1 *2	社会人特別選抜 での出願を希望する者は提出してください。 勤務先の所属長または代表者が作成した受験許可書 宛名は「薬食生命科学総合学府長」、所属長または代表者の印は「公印」を使用すること。(氏名、所属先、在職期間を明記：A4判縦 様式任意)

*1 姓が変更となっている場合は住民票や戸籍抄本等、変更が確認できるものを添付してください。

*2 「公印」を所持していない等、使用できないやむを得ない理由がある場合は、事前に入試室に相談し、指示を受けてください。

【外国の大学(院)を卒業・修了(見込)の方は下記をご確認ください】

- ・c, d及び授与された証書等が日本語または英語以外で表記されている場合は「日本語訳または英語訳」を添付してください。
- ・証明書が1部しか発行されない等の理由で原本の返却を希望する場合は、本学ホームページから「留学生の証明書【原本】返却願」を確認し、手順に従って原本返送の申請をしてください。
- ・外国の大学で作成したものについては、厳封されていなくても結構です。

5 出 願

(1) 出願期間

2025年7月11日（金）～7月18日（金）

窓口受付時間：平日9：00～12：00、13：00～16：00

※ただし最終日は15:00まで（郵送も含む）

(2) 出願書類

角形2号の封筒（縦332mm×横240mm）に該当する書類を入れ、学生部入試室宛に提出してください。
（封筒の表書きには「大学院薬食生命科学総合学府 秋季入学 出願書類在中」と朱書すること）
郵送の場合は、**簡易書留郵便**または**簡易書留速達郵便**により提出してください（期限厳守）。

提出先：〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学 学生部入試室

※出願資格審査で提出済みの書類については、再提出は不要

出願書類		説明（所定の様式は本学ホームページからダウンロードすること）
a	入学願書 （進学願書）	所定の様式 ◎出願に先立って、志望講座・研究室担当教員に必ず連絡をとること。
b	写 真 票	所定の様式。写真（4.0cm×3.0cm）を貼付すること。
c	卒業・修士課程 修了（見込）証明書 【原本】	出身大学（院）において作成、 厳封したもの を提出すること。 ※修士課程を修了している者・修士課程を修了見込みの者については、学士の卒業証明書は不要
d	成績証明書 （学部、修士） 【原本】 *3	学部と修士課程 について、出身大学（院）においてそれぞれ作成、 厳封したもの を提出すること。 ※大学等に編入している者は、編入前の学校の成績証明書も提出すること。
e	研究経過等要旨 ・学位論文 *3	学位を有する者は「最終学歴の学位論文」の写し及びその要旨をそれぞれ1部ずつ提出すること。 卒業見込みまたは修了見込みの者は、研究経過等の要旨でも可。 ※薬学専攻の出願資格(7)、(8)、薬科学・薬食生命科学専攻の出願資格(6)、(7)に該当する者については、研究歴、研究内容の要旨、研究論文目録及び論文別刷（3編まで）をそれぞれ1部ずつ提出すること。 ◎要旨は2000字程度とする。（A4判縦：横書、パソコン等での作成可）
f	入学検定料	30,000 円 郵便局の 普通為替証書 に限る。 購入後、何も記入しないこと。 ※本学大学院薬食生命科学総合学府・博士前期（修士）課程修了見込みの者で、本学府・博士/博士後期課程に進学を希望する者は不要。
g	返信用封筒 （受験票送付用） *4	市販の長形3号の封筒に、住所・氏名・郵便番号を明記し、 460円分の切手を貼付 すること。 2025年8月8日（金）までに受験票が届かない場合は入試室まで連絡すること。
h	住 所 票	所定の様式。住所・氏名を明記すること。「様」は消さないこと。

*3 姓が変更となっている場合は住民票や戸籍抄本等、変更が確認できるものを添付してください。

*4 海外への送付を希望する者は、EMSでの送付に必要な送料分の切手を同封してください。

◎出願時に日本国外に在住の者は、次の書類を併せて提出してください。

出願書類	説明（「所定の様式」は本学ホームページからダウンロードすること）
経費支弁能力を 証明する書類	出願者は、自身の留学予定期間中に必要となる経費について十分な支弁能力があることを、以下の書類により立証して下さい。 <u>出願者本人が経費支弁者となる場合</u> ・経費支弁計画書（所定の様式） ・支弁の裏付けになる書類（本人の預金残高証明書等） <u>出願者本人と経費支弁者が異なる場合</u> ・経費支弁計画書（所定の様式） ・支弁の裏付けになる書類（預金残高証明書等） ・経費支弁者と出願者との親族関係を証明する書類

6 選 抜 方 法

入学者の選抜は、学力検査（英語（*TOEIC*® L&R IPテスト）、スコアを200点満点に換算）、成績証明書、修士学位論文または研究経過の要旨及び口頭試問の成績（100点）を総合し、選抜ごと（一般選抜、社会人特別選抜及び外国人特別選抜）に行います。

※*TOEIC*® L&R IPテストの試験結果は本学府の入学試験にのみ有効であり、*TOEIC*® L&R IPテストのスコアレポート（個人成績表）は受験生へは提供しません。

7 試験日程及び会場

(1) 試験日時

月	日	時 間	科目等
2025年8月20日（水）		9：00～11：30（150分）	英語（ <i>TOEIC</i> ® L&R）
		13：00～	口 頭 試 問

※「英語（*TOEIC*® L&R）」について

- ・本学大学院試験会場で*TOEIC*® Listening & Reading IPテストを行います。
- ・試験時間には、説明時間（約30分）を含みます。
- ・辞書等の持ち込みはできません。

(2) 試験会場

静岡県立大学 草薙キャンパス （※本冊子の15ページ参照）

8 合 格 発 表

発表日時 2025年9月2日（火）10時

- (1) 合格者の受験番号は本学ホームページ（<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/admissions/graduate/>）にて掲載します。ただし、合格通知書の送付をもって正式通知とします（電話等による照会には一切応じません）。
- (2) 合格通知書は、出願時に選択した方法（郵送または入試室での受け取り）にてお渡しいたします。

9 出願書類の請求及び出願上の留意事項

- (1) 出願資格審査の提出書類および出願書類のうち「所定の様式」は、本学ホームページに掲載のPDFファイルを印刷したものを利用してください（<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/>参照）。または入試室あてに請求してください。

※ 郵便で出願書類付の募集要項を請求する場合は、次のようにしてください。

ア 封筒の裏側に住所・氏名を明記するとともに、表側には必ず「大学院薬食生命科学総合学府 秋季入学 募集要項請求」と朱書きし、返信用封筒を同封して入試室宛に請求してください。

イ 返信用封筒は角形2号（縦 332mm×横 240mm）を使用し、受取人の住所・氏名・郵便番号を明記して、270円切手（速達の場合は 570円切手）を貼付してください。

- (2) 出願書類に不備のある場合は、受理しないことがあります。
- (3) 出願書類受理後の書類の変更は認めません。
- (4) 出願書類等に虚偽の記載があった場合には、合格を取り消します。
- (5) 一度受理した出願書類及び入学検定料は返却しません。
- (6) 過去の入学試験問題（英語）については、著作権の都合上本学で試験問題の保管ができないため閲覧できません。
- (7) 入学志願者で、身体に障がい等（障がいの程度は学校教育法施行令第22条の3の規定に該当するもの）があり、受験上特別な配慮を要する者は、2025年6月13日（金）16:00までに入試室へ必ず事前照会してください。

10 その他

(1) 入学手続等について

合格者に対して、「入学手続要項」を送付します。概要は以下のとおりです。

ア 入学手続

(ア) 受付日【持参の場合】※郵送による受付日は入学手続要項送付時にお知らせします。

2025年9月12日(金)

(イ) 主な提出書類・納付金

- a 宣誓書・保証書 b 住民票（静岡県内の者のみ） c 写真
d 入学金 ※入学手続要項送付時にお知らせします。

(参考) 2025年4月入学者実績：静岡県内の者141,000円・静岡県外の者366,600円

※注1：「静岡県内の者」とは、本人または本人の配偶者若しくは1親等の親族が、2025年9月1日において、引き続き1年以上の期間静岡県に住所を有していたことを住民票により証明できる者を指します。

※注2：2025年度中に入学金が改定された場合には、改定後の入学金が適用されることとなります。

※注3：本学大学院薬食生命科学総合学府・博士前期（修士）課程修了見込みの者で、本学府・博士/博士後期課程に進学する者については入学金不要です。

- e 保険料 ※入学手続要項送付時にお知らせします。

(参考) 2025年4月入学者実績：（博士）4,730円 （博士後期）3,670円

- f その他諸経費 入学手続要項送付時にお知らせします。

イ 授業料 ※入学手続要項送付時にお知らせします。

(参考) 2025年4月入学者実績

後期授業料（入学時に納付）	267,900円
次年度前期授業料（4月に納付）	267,900円
合 計（授業料年額）	535,800円

注：年額一括納付はできません。また、2025年度中または入学時に授業料が改定された場合には、改定後の授業料が適用されます。なお、在学中に授業料が改定された場合には、改定時から新たな授業料額が適用されます。

(2) その他参考事項

ア 日本学生支援機構（旧日本育英会）奨学金について

合格者に対して、合格通知書送付の際に貸与希望を確認します。

イ 授業料等の減免について

この制度の詳細については、「入学手続要項」にてご確認ください。

また、災害被災者の場合は、申請により授業料以外に入学金も免除されることがあります。

注：日本学生支援機構奨学金及び授業料等の減免の詳細については、学生部学生室に照会してください（TEL（054）264-5009）。

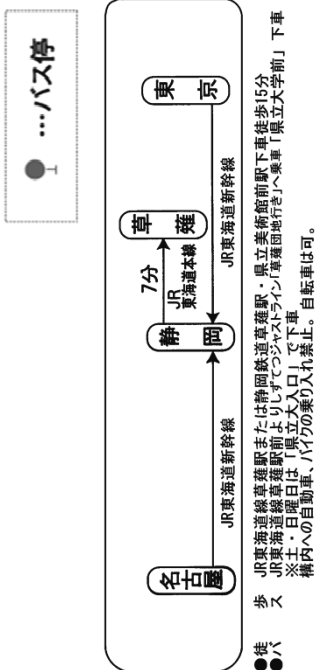
ウ 長期履修制度について

長期履修制度とは、職業を有している、育児・介護等を行う必要がある等の事情により、標準的な修業年限での修了が困難な者に限り、所定の在学年限の範囲内で修業年限を延長して教育課程を履修することを認める制度です。この制度の利用により、授業料については、標準修業年限分の総額を長期履修が認められた年数で分割して納入することができます。詳細については、学生部学生室に照会してください（TEL（054）264-5009）。

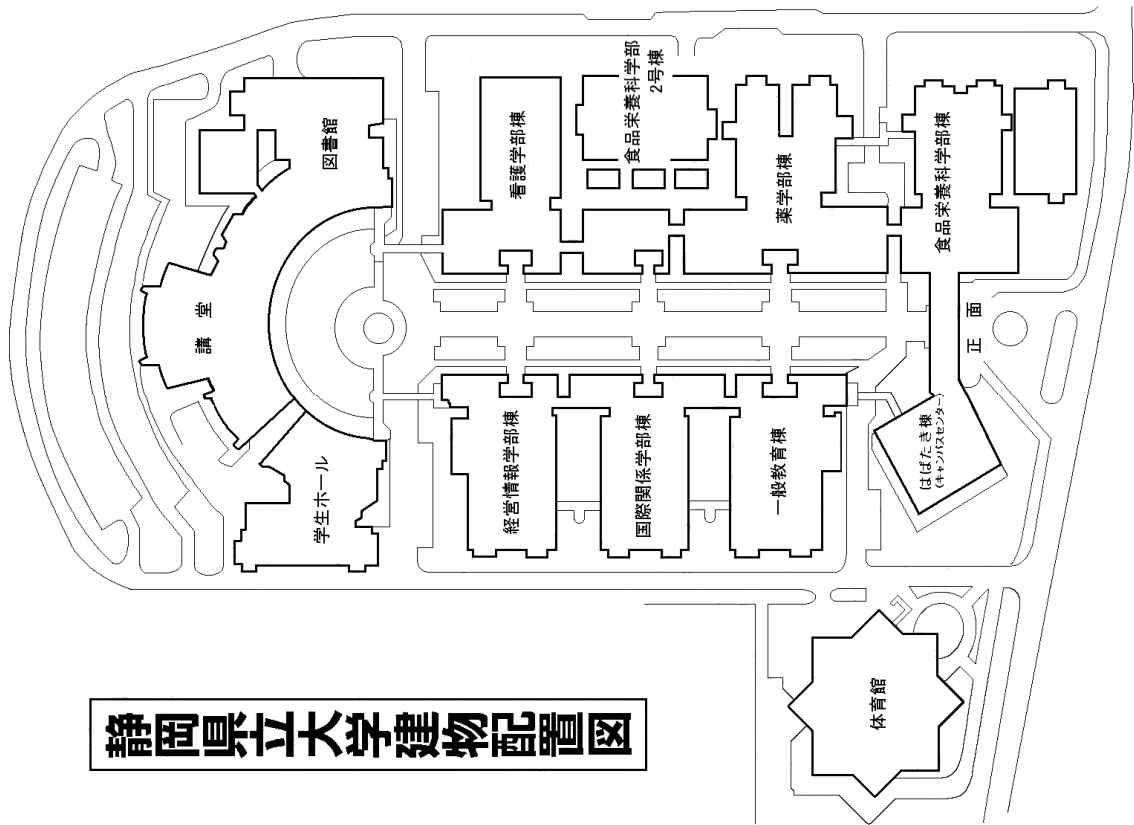
静岡県立大学大学院薬食生命科学総合学府

講座	主 な 研 究 分 野 と 研 究 題 目	薬	薬科	薬食
薬化学講座 教授 眞鍋 敬 准教授 小西英之	研究分野：有機化学、化学反応論、触媒的合成化学 □ 高性能触媒の開発研究 □ 安全・簡便な分子変換法の研究 □ 新規機能性物質・生物活性物質の創製研究 □ 化学反応機構の解明に関する研究	●	●	
生体機能分子分析学講座 教授 轟木堅一郎 准教授 児島憲二	研究分野：生体機能分子の高感度分析化学的研究 □ 超微量成分の高感度・高精度分析法の開発 □ 次世代バイオ医薬品の新規分析法開発 □ 単一細胞メタボロミクスの開発 □ 高選択的分子イメージング法の開発	●	●	
衛生分子毒性学講座 教授 吉成浩一 准教授 志津怜太	研究分野：化学物質の代謝と毒性／安全性に関する研究 □ 薬物代謝酵素の発現変動機序および薬物間相互作用に関する研究 □ 核内受容体の生理学的・毒性学的機能の解明 □ がんの発症機序解明と予防・治療に関する研究 □ 化学物質の安全性評価系・動物実験代替法の開発	●	●	
生命物理化学講座 教授 橋本 博 准教授 原 幸大	研究分野：タンパク質やその複合体である生体超分子の構造生物学 □ DNA 損傷応答に関わるタンパク質の構造と機能に関する研究 □ 染色体の構造形成に関わるタンパク質の X 線結晶構造解析と機能相関研究 □ がん細胞の増殖を制御するタンパク質の構造と機能の解明 □ タンパク質の実験データとシミュレーションを統合するデータ同化研究	●	●	
統合生理学講座 教授 原 雄二 准教授 土谷正樹	研究分野：骨格筋の恒常性維持を基盤とする健康長寿 □ 骨格筋幹細胞にて機能する膜張力感知イオンチャネル群に関する研究 □ メカノバイオロジーを基軸とした、神経筋疾患に対する治療戦略の構築 □ 脂質二重層間における脂質輸送機構とその意義解明に関する研究 □ 微量金属元素による生体調節機構の解明	●	●	
医薬品製造化学講座 教授 滝田 良 准教授 吉村文彦	研究分野：有機化学、有機反応化学、有機合成化学、計算化学 □ 元素・結合・反応場の特性を活用する触媒設計指針と有用官能基導入法の開発 □ 高活性・高選択性を実現する分子メカニズムの解明 □ 生物活性化合物の分子科学：有用分子プローブの創製と生命科学への展開 □ 医薬品として期待される生物活性を有する天然有機化合物の全合成	●	●	
創剤工学講座 教授 近藤 啓 准教授	研究分野：製剤設計、製剤工学、薬物送達システム開発、製剤物性評価研究 □ 粒子設計ならびに製剤製造プロセスに関する研究 □ レオロジー解析に基づく製剤設計と製剤物性評価法の開発に関する研究 □ 脂質及び機能性高分子を用いた微粒子製剤の設計と物理化学的特性評価に関する研究 □ 多様なモダリティに対応する新規 DDS (Drug Delivery System) に関する研究	●	●	
医薬品創製化学講座 教授 濱島義隆 准教授 江上寛通 准教授 稲井 誠	研究分野：環境調和型医薬品創製を志向する有機合成化学および創薬化学的な応用研究 □ 光エネルギーを駆動力とするクリーンな分子変換反応の開発に関する研究 □ 不斉有機分子触媒の開発と医薬品精密合成に関する研究 □ 有機フッ素化学の新規合成法および創薬研究への応用に関する研究 □ 生物活性天然物の合成研究および生体関連機能性分子の開発に関する研究	●	●	
創薬探索センター 教授 浅井章良 准教授 澤田潤一	研究分野：医薬品候補化合物の探索、評価、作用機序解析 □ シグナル伝達や腫瘍免疫に着目した創薬スクリーニングシステムの開発 □ 新規抗がん剤の創製を目的としたリード探索と構造最適化研究 □ 医薬候補物質の作用機序解析とバイオマーカー探索 □ 低分子化合物を用いた細胞内ネットワークの解析と制御	●	●	
臨床薬剤学講座 教授 辻 大樹 准教授 内野智信	研究分野：Personalized therapy 実践のための臨床的・基礎的研究 □ ハイリスク薬の臨床効果や有害事象に影響を及ぼす薬物動態的要因の探索 □ 関節リウマチ治療における治療効果判定マーカーの探索 □ 製剤の分子製剤学的評価に基づく新規 DDS および院内製剤の開発 □ 経皮吸収製剤の開発と評価	●	●	

講座	主 な 研 究 分 野 と 研 究 題 目	薬	薬科	薬食
生体情報薬理学講座 教授 黒川洵子 准教授	研究分野：生体・病態情報に関わる分子薬理学的研究 □ 疾患の発症および薬物反応の性差の基盤となる細胞シグナルの探索的研究 □ ヒト iPS 細胞由来分化細胞の創薬応用 □ 不整脈発症におけるイオンチャネル分子複合体の役割に関する研究 □ サルコペニアおよび生活習慣病の発症機序に関する研究	●	●	
分子病態学講座 教授 森本達也 准教授 刀坂泰史	研究分野：循環器疾患の発症メカニズムの解明と治療法の開発 □ 心不全発症における心筋細胞核内伝達機構に関する研究 □ クルクミンおよび食品成分による心不全治療に関する展開医療研究 □ 線維化疾患におけるエピジェネティクス制御に関する研究 □ 脳腫瘍発症メカニズムの解析と創薬研究	●	●	
薬理学講座 教授 石川智久 准教授 木村俊秀	研究分野：糖尿病およびその関連疾患の病態解明、治療法開発をめざした薬理学的研究 □ インスリン分泌と膵β細胞量の調節に関与する細胞内情報伝達機構の解析 □ 肝星細胞の活性化と脱活性化の制御に関わる細胞内情報伝達機構の解析 □ 糖尿病及び肝線維症発症に関与する細胞内情報伝達機構の解析と疾病予防への応用 □ 天然生理活性物質を応用した糖尿病及び肝線維症の治療法開発を指向した基礎研究	●	●	
臨床薬効解析学講座 教授 伊藤邦彦 准教授 井上和幸	研究分野：遺伝子情報に基づく薬物療法の個別化・適正化および創薬に関する研究 □ 薬効や副作用に関連する遺伝子マーカーの解析と薬物療法個別化への応用 □ 疾患の予防や薬物治療に有用なバイオマーカーに関する研究 □ がん、感染症、自己免疫疾患の診断や治療に有用なヒト型抗体の作製と臨床応用 □ 抗体のエピトープ解析に基づく分子標的治療薬の開発	●	●	
実践薬学講座 教授 内田信也 准教授	研究分野：患者ベネフィットを追及した臨床製剤及び薬物動態・薬力学解析に関する研究 □ 菓子様製剤、口腔内崩壊錠、院内製剤の製剤化と臨床評価に関する研究 □ 医薬品の個別適正使用を目指した薬物動態・薬物作用解析研究 □ 遺伝的多型や薬物相互作用が薬物動態や臨床効果・副作用に及ぼす影響に関する研究 □ 薬剤師業務のアウトカム評価と新たな業務の発見・創出に関する研究	●	●	
生化学講座 教授 竹内英之 准教授 高橋忠伸	研究分野：糖鎖生物学、病態生化学 □ 糖鎖による Notch シグナル調節メカニズムの解明とその薬学的応用 □ ウイルス感染増殖における複合糖質の機能解明と抗ウイルス剤の開発 □ 脳における糖鎖の機能解明 □ 糖鎖修飾による幹細胞制御機構の解明と再生医療応用	●		●
生薬学講座 教授 渡辺賢二 准教授 佐藤道大	研究分野：天然物化学、生物有機化学、細胞分子生物学、生合成 □ 細胞工学的手法を用いた有用物質生産と生合成研究 □ 二次代謝産物の生合成研究 □ コレステロール生合成に関与する酵素の生物有機化学 □ 生物試験法を指標とする天然物の探索	●		●
免疫微生物学講座 教授 梅本英司 准教授 大橋若奈	研究分野：生体環境を重視した免疫学 □ 粘膜免疫系の機能解析 □ 免疫細胞に作用する代謝分子とその受容体の機能解明 □ 病原性細菌に対する宿主防御機構の解析 □ 知覚神経受容体刺激による化学物質アレルギー促進機構の解明	●		●
医薬品製造化学講座 教授 滝田 良 准教授 吉村文彦	研究分野：有機化学、有機反応化学、有機合成化学、計算化学 □ 元素・結合・反応場の特性を活用する触媒設計指針と有用官能基導入法の開発 □ 高活性・高選択性を実現する分子メカニズムの解明 □ 生物活性化化合物の分子科学：有用分子プローブの創製と生命科学への展開 □ 医薬品として期待される生物活性を有する天然有機化合物の全合成	●		●
薬剤学講座 教授 尾上誠良 准教授 佐藤秀行	研究分野：創薬および最適な薬物療法の実現を目指した薬物動態制御研究 □ 薬物の体内動態、薬効・副作用の解析による効率的創薬・創剤 □ 生理活性ペプチドの医薬応用を指向した DDS 開発と動態解析 □ 薬物動態情報と薬剤物性にに基づく安全性予測法の開発 □ 機能性食品の動態制御研究ならびに薬物との相互作用解析	●		●



静岡県立大学
静岡市駿河区谷田52-1
☎ (054) 264-5007



《入学者選抜試験に関する問い合わせ》

静岡県立大学学生部入試室（平日9:00～12:00、13:00～17:00）

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52－1

TEL (054)264－5007 FAX (054)264－5199

メールアドレス: nyus@u-shizuoka-ken.ac.jp

ホームページ: <https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

よくあるご質問: <https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/admissions/graduate/faq/>

薬学研究院ホームページ: <https://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/>